評 価 意 見

1 教育委員会

守谷市教育委員会では、いばらき教育プランや守谷市総合計画を基に「守谷市教育目標」及び「守谷市学校教育プラン」等を作成し、さまざまな施策を展開している。教育目標「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」の4つの施策や教育目標を達成するための学校教育プラン等の項目内容等が実によく練られている。定例教育委員会においても審議案件等の他に、市内小中学校及び事務局各課の状況報告を受けるなど事務局と連携しながら真剣な議論によって政策を推進している。さらに会議のみならず、現場の意見に基づいた議論を行うため学校訪問や各種行事等に参加し、意見交換や現地の状況確認をするなど確実な教育行政の推進に努めている。

2 学校教育・指導事業

- ・ 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保では、グラウンドの除染作業や放射線・熱中症対策のため教室にエアコンの設置が進められ、また守谷小学校の老朽化による改築工事で温もりのある木造校舎の建築が進められている。
- ・ 確かな学力の育成では、小学校1・2年生と中学校1年生を対象とした学習支援ティーチャーを配置している。小学校21名、中学校10名。きめ細かな指導の点から考えて大きく貢献していると考えられる。これは守谷市独自の取組で、小学校では1・2年生で31名～35名の学校に対して配置。中学校1年では、国・数・理・英に対し県から少人数加配を受けていない学校に配置して、きめ細かな指導や個別指導・少人数指導が可能となり基礎学力の定着が図られている。県学力診断テストでは、小3～中3の全ての学年で県の平均回答率を上回っている。しかも学年が上がるにつれて大きく上回る。
- ・ 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立では、あいさつ運動週間等の取組が小中連携で行われ効果が上がっている。また、守谷市で作成した子育て年表「エンゼル・サポート・プラン」というすばらしい参考資料があるが、もっと活用する具体的施策を考えてこのプランを生かしてもらいたい。不登校の減少に繋がる可能性もあると考える。
- ・ 体力の向上では、体力テストの結果からは小中学校とも県南平均は上回ったものの、県平均は上回ることができなかった。各学校が作成している「体力づくり推進計画」の工夫改善が必要である。
- ・ 国際理解教育や外国語教育の小中連携と充実では、11年前から全校にALTを配置している。平成23年度の「中学3年時における英語検定3級以上の取得率」調査では、市全体で32.5%と全国平均の19%を大きく上回っている。小学校1年から週1時間英語学習を実施してきた成果であろう。英語での

コミュニケーション能力を育成できている。

- ・ 地域社会への積極的情報発信では、メールマガジン配信システムが全校に装備されている。特に、緊急性のある情報を提供することが求められていることから、保護者の加入率を高めていきたい。
- ・ ボランティアとの連携による登下校の児童生徒の安全確保体制の確立では、スクールミニパトが全校に配置され有効活用が図られている。

以上列記した各項目において、目標達成に向けた施策が確実に実施され、概ね目標が達成されている。

3 給食センター事業

食は「生きる力」の基と考える。今のように安全・安心な食が求められている時代に、安全・安心で安定した給食を提供することができた調理員の皆様にプロの意識を感じる。

小学校への訪問による栄養指導では、計画どおり実施することによって理解を深めることができた。また、保護者による給食センターの見学会は学校給食について理解を深めるのに大切なことである。今後も継続を望む。

食物アレルギーの児童生徒への保護者に、給食食材の成分表を献立表とは別に配布し、保護者の声を給食に反映させ調理を工夫し、みんなと同じものを食べるように努めていることは素晴らしいことである。今後とも調理ドライ運用を徹底し、食中毒防止に努め、安全・安心でおいしい給食を提供していただきたい。

4 生涯学習・社会教育事業

- ・ 多様な学習機会の提供では、自然観察会や野鳥観察会で、市民に守谷の自然について理解を深めていただき、自然愛と郷土愛の心を育てることに寄与できている。

公民館講座、教室事業は講座回数も多く生涯学習の機会を提供している。特に、事業内容に関しては市民のニーズに呼応した事業が展開されている。

- ・ 学校体育施設開放事業では、定期サークルは131団体で、生涯スポーツのきっかけづくりと自主的活動の支援事業として、市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として中心的な役割となっている。
- ・ 青少年の体験学習の充実では、中学生富士登山を実施し、心身ともに健全な身体をつくり仲間意識を育むことに重要な役割を果たしている。
- ・ 芸術文化活動・発表の場の提供では、芸術祭、コンサート等大規模支援制度、夕べのコンサート、伝統文化子ども教室実施団体の支援と多種多様な芸術文化活動成果の発表の場を設け、参加者の学習意欲向上、来場者の学習参加促進を図っている。
- ・ スポーツ・レクリエーションの活動の推進では、健康スポーツフェスティバルが開催され、高齢者同士のスポーツ大会や健康福祉まつりでの発表等で体力づ

くり，健康増進，生きがいや健康づくりで社会参加を促している。

- ・ 地域住民の交流の場の提供では，守谷ハーフマラソンに全国から6000名を超える参加があり，守谷市を全国にPRできている。また，各種スポーツ大会の開催で，体育協会の各専門部の協力で年間9大会を開催し，市内各クラブの交流と技術の向上に寄与している。
- ・ 放課後子どもプラン事業では，児童クラブと放課後子ども教室事業を一体的に行い，有料でしかも，全小学校単位で実施しているのは，全国的にも例が少ない事業であり地域の教育力向上，活性化に寄与している。

以上列記した各項目は，特に関心を引かれた施策である。生涯学習事業では，全体的に各項目において，目標達成に向けた施策が確実に実施され，概ね目標が達成されている。

5 図書館事業

すべての市民に，気軽にいつでも気持ちよく利用される図書館を目指し，多様な資料の収集・整理・保存に努める中で，市民一人当たり県内トップの資料費500円が確保され，23年度購入の図書資料等の充実が図られた。貸出率も県内第2位と高水準を維持している。また，市民の知的要求を保障し日常生活を活かすため，図書機能の強化とサービスの充実を図った。図書館ネットワークの活用により，市民が求める資料及び情報の効率的，効果的な貸出し返却を提供できている。さらに，希望の本の予約も最寄りの窓口で配送サービスが受けられるなどかなり充実している。

< 総括 >

教員委員会全体の評価について

守谷市教育委員会は，「現場優先」の考えを大事にして，さまざまな施策を展開している。そして，各種施策を常に点検・評価して，課題を見つけ他の意見を取り入れながら改善し，市民のニーズに適切に対応しながら真摯に取り組んでいる。

さらに，江戸末期の長岡藩士だった小林虎三郎による故事の「米百俵」ではないが，守谷市は子どもたちのために教育予算を十分にかけている。23年度は，一般会計の18.71%である。これは，将来の守谷市の発展に繋がっていると考える。守谷市教育目標のために，これからも市民の皆様との協働・連携を大切にして欲しい。

確かな学力の向上に顕著な成果が見られたが，豊かな心の育成及び体力の向上についてもさらに成果が上げられるよう計画的にしっかりと取り組むことが大切である。また，学力の二極化が見られる状況の中で，守谷市独自の学習支援ティーチャールの配置事業は，児童生徒一人一人にきめ細かな指導ができて，学力の向上が確実に図られている。これからも優秀な人材確保に努めて欲しい。

給食費の滞納は，全国的な問題となっている。平成24年度から学校給食費納入

確約書が施行される。給食費滞納の解消を図る策として期待したい。

人口増加に伴い、新しい守谷市を意識した取組が生涯学習事業に多く見られる。魅力と活力のある守谷市の益々の発展を願う。生涯学習事業は、高齢社会の中で益々市民に期待される分野である。

最後に、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。平成18年に教育基本法が60年ぶりに改定され、教育基本法の第10条に「家庭教育」が加えられた。その2項に「国及び地方公共団体は、……、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」とある。なぜ「家庭教育」が加えられたかをしっかり考えなくてはならない。

守谷市で作成した子育て年表「エンゼル・サポート・プラン」の活用の工夫や家庭教育の講座・講演会等に多くの保護者の参加を促す施策を検討して、家庭教育の充実を図っていく必要があると考える。